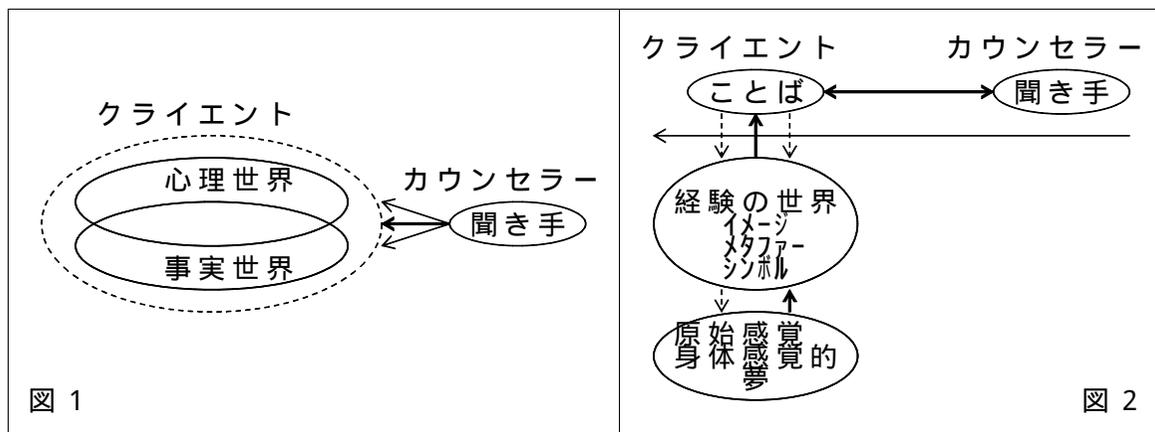


# 学校教育相談の治療技法

## 第1節 治療のレベル

### 1. クライアントの世界のレベル



鑑幹八郎は、クライアントの言葉の内的世界の見取図を図1'のように表した。大きな点線の輪がクライアントの言葉の内容とすると、の「心理的世界」はクライアントの心の状態の色々な表現であり、の「事実の世界」は誰でも客観的に確かめられるものである。は色々な事実や行動の中に心理的なものが盛り込まれながら語られるという世界である。カウンセラーが最も注目しなければならない世界はである。

そのの世界を断面図にしたのが図2'である。実線からは「ことばの世界」でかかわっているカウンセラーとクライアントを表している。ことばの深層にあるのが、ことばを使ってもピッタリ表現できないイメージやメタファーやシンボルで語られる「経験の世界」である。さらにその深層にあるのが、夢や漠然とした感じや五感的に表現される「原始感覚の世界」である。カウンセラーは、クライアントの「経験の世界」「原始感覚の世界」を感じ取りながら、それらを言葉によってクライアントに返していく仕事及要求される。

### 2. カウンセラーの理解のレベル

鑑は、カウンセラーはクライアントの言葉の世界を、印象の水準ではなく組織的に統合して理解しなければならないと考え、クライアントの表す経験世界を5つの次元に分けてそれに対応するカウンセラーの理解のレベルについて考えているが<sup>1</sup>、私なりにアレンジして整理してみよう。なお、次元の高い治療は、それまでの次元の低いレベルの治療の上に積み上げられるものであり、いきなり次元の高い治療は成立しない。

次元	CIのレベル	主導率 (CI:Co)
信頼	ことば	9 : 1
受容	ことば・経験	8 ~ 7 : 2 ~ 3
共感	経験	7 ~ 6 : 3 ~ 4
解釈	原始感覚	4 ~ 3 : 6 ~ 7
分析	原始感覚	2 : 8

### 第 次元 信頼関係樹立の次元

クライアントが「ことばの世界」で表現する多くの事柄を、カウンセラーはひたすら聴いている。クライアントの主導率(CI)：カウンセラーの主導率(Co) = 9 : 1。

### 第 次元 受容の次元

クライアントが「ことばの世界」で表現した内容の中で、カウンセラーがポイントになると感じた事実をクライアントの言葉を使って返し、さらに詳しく具体的に「ことばの世界」のレベルで、できれば「経験の世界」のレベルまで話すことを促す。CI : Co = 8 ~ 7 : 2 ~ 3。

### 第 次元 共感の次元

クライアントが「ことばの世界」や「経験の世界」で表現した感情の葛藤や、クライアント特有の意味があると思われる言葉や内容をクライアントに返し、さらに詳細に具体的に「経験の世界」のレベルで話すことを促し、問題点を明確化していく。CI : Co = 7 ~ 6 : 3 ~ 4。

### 第 次元 解釈の次元

カウンセラーはクライアントの話の内容をある程度解釈し、問題点をいくつかの主題に絞り、「原始感覚の世界」まで話すことを促す。CI : Co = 4 ~ 3 : 6 ~ 7。

### 第 次元 分析の次元

クライアントの心理を深層まで分析し、人格発達の角度から理論的に再構成して、クライアントの「原始感覚の世界」にメスを入れて根本的な治療をする。CI : Co = 2 : 8

## 3 . 学校教育相談の治療レベル

一般の教師は第 次元で十分である。これだけでも問題を解決していく生徒は多い。普通の相談教師は第 次元までが仕事だろう。第 次元は、熟練した相談教師や外部の相談機関の仕事になる。第 や第 次元は、本物の実力をもったカウンセラーや精神科医の仕事である。教師が第 や第 次元の治療に興味をもって勉強するのはよいが、学校現場では決して試してはいけない。